

| | | |
|------|---------------------------------|---|
| 主な内容 | ● 定期報告書を忘れずに提出しましょう！…………… | 1 |
| | ● 冬期間の子牛の下痢・呼吸器病対策は万全ですか？…………… | 2 |
| | ● 豚熱の殺処分の見直しについて…………… | 3 |
| | ● 韓国におけるアフリカ豚熱の継続発生について…………… | 3 |
| | ● 野鳥を介したウイルス侵入の防止対策の徹底について…………… | 4 |

定期報告書を忘れずに提出しましょう！

大家畜課

今年も家畜伝染病予防法に基づき、定期報告書を提出いただく時期となりました。

提出方法は様々ありますので、下表を御確認の上、提出願います。

| 定期報告書提出の概要 | |
|------------|--|
| 提出期限 | 令和8年4月15日（牛、馬、めん羊、山羊、豚） 令和8年6月15日（鶏） |
| 提出窓口 | ① 県南家畜保健衛生所 持参、郵送、FAX（0197-23-3593） メール（ CE0003@pref.iwate.jp ） ② オンライン申請 ③ 市町村畜産担当窓口 ※ その他、牛の飼養者のみ、JA、NOSAI、家畜市場（子牛）の窓口へ持参でも受け付けます。  |
| 提出物 | 2月1日時点 の飼養状況を次の様式に記入。 ◆ 「定期報告書」： 変更がなくても提出 氏名、住所、頭数、飼養衛生管理基準チェック表 ◆ 「添付書類」： 畜舎を新設した等、以前の報告と変更がある場合には提出 畜舎図面、消毒設備・埋却候補地等 |

【お知らせ・お願い】

- 例年と様式が異なっていますので御注意ください。
- オンライン申請は、国の飼養衛生管理支援システムによりパソコン・スマホを用いて自宅などから手続きが可能になります。詳しくは国のホームページ（https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_shiyou/250918.html）を参照してください。



冬期間の子牛の下痢・呼吸器病対策は万全ですか？

大家畜課 防疫担当

肉用牛は比較的寒さには強いですが、子牛は成牛に比べて、体重当たりの体表面積が大きく熱を奪われやすいこと、体脂肪が少ないこと、第1胃が未発達のため体内で発生する発酵熱が少ないこと等の理由で体温を維持することが難しく、寒冷対策が重要です。

哺育期の下痢や呼吸器病への罹患は発育遅延につながり、経営に大きなダメージとなるので、十分な対策をとって予防しましょう。

1. すきま風対策と定期的な換気

哺育牛は寒さに弱いため、入念な寒冷対策が必要です。対策としては、以下のものが挙げられます。

- ① 敷料を十分に敷く（厚さ 10cm 以上）又は、牛床マットを使う（図1）
- ② コンパネやシートなどで覆い、すきま風を防ぐ
- ③ 温水を給与する
- ④ カーフジャケット（図2）やカーボンヒーター等での保温を行う。



図1 牛床マットとオガ粉の利用



図2 多量の敷料とカーフジャケットの利用例

2. ワクチンによる免疫強化

農場でよくみられる牛の下痢・呼吸器病としては、下痢ではコクシジウム、牛ロタウイルス病が多く1年を通して子牛で多発し、牛コロナウイルス、大腸菌、クリプトスポリジウムなどとの混合感染により、症状を悪化させる事例が散見しています。呼吸器病では主に、牛RSウイルス病や牛コロナウイルス病が寒冷期11～4月に集中して発生しています。飼養環境の改善に加えて、呼吸器病ワクチンの接種を検討する場合は、ワクチンの特徴を踏まえ、BVD対策も考慮して管理獣医師と相談し、適切なプログラムで接種しましょう。



豚熱の殺処分の見直しについて

中小家畜課 中家畜担当

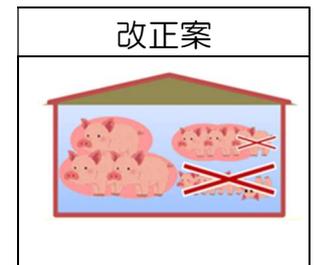
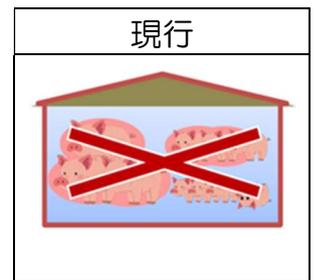
平成 30 年 9 月、豚熱（CSF）が岐阜県で国内 26 年ぶりに発生して以降、これまで 24 都県 100 事例で約 43 万 6 千頭を殺処分しました。

令和元年 10 月、国内で CSF ワクチンの接種が開始され、国では、令和 2 年以降新たな検査（リアルタイム PCR）を用いて、ワクチン接種農場の発生事例データを取集・解析を行いました。結果、ワクチン接種状況下においては、選択的殺処分であっても、全頭殺処分と比べて他農場への伝播リスクに差はないという科学的評価が得られました。

これを受け、現在、殺処分範囲を見直す法改正の手続きが進められています。

現在は、1 頭でも CSF 感染が確認された農場では、全ての飼養豚が殺処分の対象となりますが、第 76 回食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会（令和 7 年 12 月、農林水産省）においては、ワクチンを接種したばかりの豚及び未接種の豚が殺処分の対象として例示されています。

改正時期や詳細な対象範囲などは不明ですが、改正後は防疫措置や発生農場の負担軽減が期待されます。

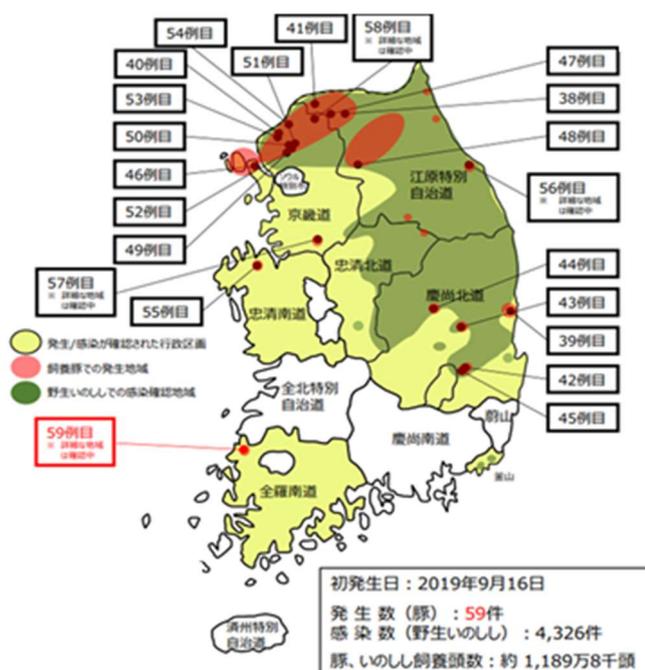


韓国におけるアフリカ豚熱の継続発生について

中小家畜課 中家畜担当

韓国では、令和元年 9 月飼養豚で初めてアフリカ豚熱（ASF）が確認されて以降、これまでに 59 事例が確認されています（令和 8 年 1 月 27 日時点）。

令和 8 年 1 月には、新たに 4 事例が飼養豚で確認されました。そのうち 1 事例は、これまで発生がなかった南部地域「全羅南道」で確認されており、韓国国内で感染がさらに拡大している状況です。



ASF ウイルスは豚肉やハムなどの加工品の中でも生存することが知られています。そのため、国内への侵入を防ぐためには、下記の点が重要です。

- ① 海外から肉製品を持ち込まないこと。
- ② 豚肉やいのしし肉を含む食品を野外に捨てないこと。
- ③ 国外から帰国後 1 週間は豚やいのししなどの動物にちかづかないこと。



野鳥を介したウイルス侵入の防止対策の徹底について

～養鶏農場でトリパラミクソウイルス1型が検出されています！～

中小家畜課 小家畜担当

今年度、管内の1養鶏場において、死亡羽数の軽度な増加が継続し、産卵率の大幅な低下が認められる事例が発生したため、病性鑑定を実施しました。

その結果、当該鶏群では重度の線虫感染に加え、トリパラミクソウイルス1型（APMV-1）遺伝子の検出が確認されました。

本症例では、APMV-1が病態に直接関与した可能性は低いと考えられましたが、国内の野鳥からも同ウイルスが検出されていることから、野外から鶏舎内への病原体侵入を示唆する事例と考えられます。

今後も、養鶏場へのウイルス侵入防止及び発生予防の徹底が重要です。

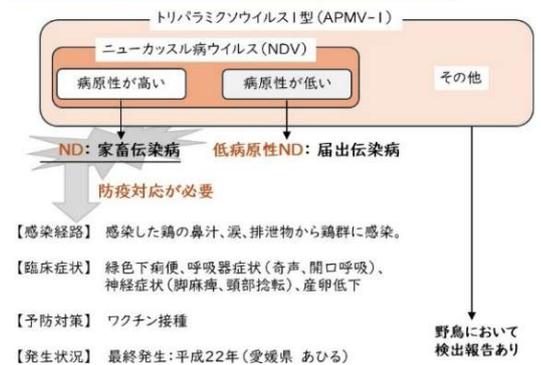
【APMV-1とは？】

APMV-1は、家畜伝染病であるニューカッスル病（ND）の原因ウイルス（ニューカッスル病ウイルス：NDV）が属するウイルス群です。

このうち、病原性の高い株が家きんに感染・発症した場合、NDと診断され、特に注意が必要なウイルスとされています。

NDと診断された場合には、家畜伝染病予防法に基づき、患畜等の殺処分、必要に応じて緊急ワクチンの接種や移動制限等の防疫措置が実施されます。

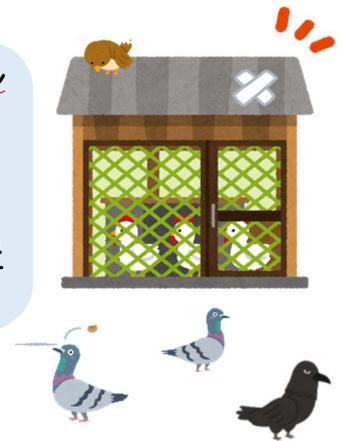
ニューカッスル病（ND）



【野鳥の侵入防止対策】

鳥インフルエンザ対策と同様に、飼養している家きんと野鳥との接触を遮断することが極めて重要です。日常管理の中で、次の点を改めて確認しましょう。

- ① 家きん舎に野鳥が侵入しないよう、屋根や壁の破損を適時修繕しましょう。
- ② 窓等には、網目が2cm以下の防鳥ネット又は金網を設置しましょう。
- ③ ネットや金網に破損がないか定期的に点検し、破損が認められた場合は速やかに修繕しましょう。



【発生予防対策】

NDはワクチンにより発生予防が可能な疾病です。

一般的なワクチンプログラムによるNDワクチンの接種では、数か月程度で感染防御に必要な抗体価を十分に維持できないことが報告されています。

そのため、採卵鶏や愛玩鶏等、長期間にわたり飼養する家きんについては、毎年、追加のワクチン接種が望まれます。



なお、適切なワクチンプログラムは、導入元での接種状況や飼養環境等によって異なります。NDワクチンの接種については、管理獣医師又は家畜保健衛生所へ御相談ください。

〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字東館 41-1

岩手県県南家畜保健衛生所 Tel 0197-23-3531 Fax 0197-23-3593

岩手県南家畜衛生推進協議会 Tel 0197-24-5532 Fax 0197-23-6988